

令和5年第2回教育委員会会議

令和5年1月31日

午前 9時30分 開会

1 開会宣言

○廣瀬教育長 ただいまから令和5年第2回教育委員会会議を開会いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告をお願いします。

○杉本教育総務課長 本日、数馬委員が道路事情によりまして後ほど遅れての出席となります。

また、本日、報告事項、公立幼稚園の再編と認定こども園整備についての説明者といたしまして、田中こども未来部次長兼保育幼稚園課長と渡部こども施設再編推進室長に御出席いただいております。

なお、本日、資料の差し替えをお願いいたしております。教育委員の皆様の机上の別冊4という資料でございますが、当初配付させていただきました資料の3ページと8ページを差し替えさせていただきますのでよろしくをお願いいたします。

以上でございます。

○廣瀬教育長 傍聴者はお見えですか。

○伊藤教育総務課主幹 本日の傍聴者はありません。

2 会議録署名者の決定

○廣瀬教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。本委員会の会議録署名者として、豊田委員と伊藤委員とでお願いしたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○廣瀬教育長 御異議ないようですから、提案どおり決定をいたします。

3 議事

○廣瀬教育長 これより議事に入ります。

本日の議事は議案9件、協議事項1件、報告事項3件ですが、議案第1号から議案第7号の工事請負契約の締結について、議案第8号、四日市市立博物館条例の一部改正について、議案第9号、四日市市楠歴史民俗資料館条例の一部改正について、協議事項、四日市市学校規模等適正化事業について、報告事項、令和5年度当初予算について、報告事項、令和5年2月定例会月議会補正予算については、今後市議会等で審議、検討される事項であるため非公開で審議する必要があると考えますが、委員の皆さん、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**廣瀬教育長** 御異議ないようですから、後ほど非公開にて審議をいたします。

(1) 報告

1 公立幼稚園の再編と認定こども園整備について

○**廣瀬教育長** それでは、報告事項、公立幼稚園の再編と認定こども園整備について、説明をお願いします。

○**渡部こども施設再編推進室長** こども未来部保育幼稚園課こども施設再編推進室長の渡部でございます。お時間いただきましてありがとうございます。

お手元の資料、別冊2に基づきまして御説明をさせていただきますのでよろしくお願いたします。

表紙1枚をめくっていただきまして、令和5年1月20日、議員説明会資料と書いてございます、1月20日に市議会に説明した内容と同じ資料で説明をさせていただきます。

次、めくっていただいた2ページからお願いをいたします。

公立幼稚園については現在16園ございまして、昨年11月の定例会では、今年度いっぱい桜幼稚園が廃園に、それから富田、川島、三重西の3園が来年度廃園ということで御説明をさせていただいたところです。差引き残りの12園の今後について、本日これから御説明をさせていただきます。

資料2ページ、大きな1番を御覧いただきますと、就学前教育・保育の施設につきまして、私立幼稚園協会、私立保育連盟との協議を進めてまいりました。

ポイントとしまして、少し飛ばして(2)の中段、②の表のところを御覧いただきますと、私立園からも、少子化の影響等々を踏まえて、こども園に移行したいという御意向が私どもに届いております。特に2段目の保育園、33園ございますけど、左から2つ目、

早期にこども園に移行したいという御希望を上げられた園が約半数ということで、こういった状況を踏まえながら、それぞれ幼稚園協会、保育連盟との協議を続けながら就学前教育・保育の環境整備に努めてまいりたいと考えてございます。

こちらについては、子ども・子育て会議と申しまして、こども未来部が所管しておりますけれども、そちらの会議体で協議を進めてまいるということで整理をさせていただいております。

続きまして、ページ右側をお願いいたします。

認定こども園の整備推進計画を本年度中に策定していきたいということで、こちらに概要をまとめております。

一番上に本市の就学前教育・保育をめぐる課題として5点をまとめております。

1つ目といたしまして、国の試算によりますと、保育ニーズのピークが令和7年度に到来し、当面の間、その状況が横ばいで推移するとされております。また、近年の共働き世帯の増加に伴い、そういった就学前教育・保育ニーズが変化をしております。御参考までに申し上げますと、公立幼稚園ですけれども、園児さんを10年前は約1,000人ほどお預かりしておったところ、令和4年度では約300人ということで減少しておる状況でございます。この辺りが③のところでもありますが、公立幼稚園が定員割れを引き起こしており、小規模化が進行しております。就学前教育を行うに当たりまして、一定の集団規模が必要でございますが、それを保てない園が出ておるということで再編を進めるに至ったということでもあります。また、4点目として、施設の老朽化が進んでおりまして、こちらについても課題となっております。5点目です。幼児教育の質の向上と機会確保に努めていく必要があります。政府でも少子化を踏まえて子ども関係に対する予算をこれからしっかりつけていくという方針も出しましたので、この辺りも踏まえながら対応を図っていきたくて考えております。

こうしたことから、その下、矢印のところですけれども、当然、就学前教育・保育の充実はさることながら、共働き子育て世帯が大変増えているということで、こういった御家庭へのニーズに対応できるこども園づくりの推進をしていくということでもあります。

目指す方向性は記載のとおり3点ありまして、その下、基本方針のところを御覧いただけますと、幼稚園の園舎につきましては、高度成長期に建てた園が大変多うございます。したがって、これから建て替えラッシュが向こう10年後ぐらいから進んでまいります。したがって、2040年を見通した配置計画を策定して、全園を認定こども園に

移行してまいるということを考えております。

その下、基本計画・実施計画です。総合計画の計画期間と合わせてこども園整備推進計画を策定いたします。したがって、前期計画におきましては令和4年度から11年という形で進めてまいります。

大きく基本計画、実施計画の2つに分けて、本日は実施計画に当たる部分の詳細を次のページ以降で御説明をいたします。

3ページをお願いします。

幼稚園につきましては、16園中4園が既に廃園が決まっている中で、残り12園を6園ずつ分けた形で整備を進めていきます。

まず、こちら、3ページに記載がございますのは、子どもの人数が減っている園につきましての対応でございます。少人数化による再編ということで、(2)のところを御覧いただきますと、記載の地区、富洲原、大矢知、八郷中央、下野、三重、四日市幼稚園につきましては、従来の方針のように、その地区にあります保育園をこども園に移行することで、幼稚園に通っておられたお子さんの受皿をつくっておくと。その上で廃園の手続きを取っていくという方針を取りたいと思っております。

各園の詳細につきましては、右の欄に記載がございます。表の見方としまして、一番上、①の富洲原幼稚園を御覧いただきますと、来年度、令和5年度の園児数の見通しとしては7人です。左側、5という数字が4歳児の人数、2というのが5歳児の人数、合わせて7人という小規模の園になっております。ちょうど富洲原小学校の北側に富洲原保育園、南側に富洲原幼稚園がございまして、富洲原保育園をこども園に移行しまして、それで受皿をつくれた段階で富洲原幼稚園を廃園という形で考えております。

なお、再編時期の欄にございますように、私立保育園、この富洲原地区に2園ありますが、こども園に移行したいという希望が出ておりますので、この手続を進めまして、令和7年度末に富洲原幼稚園を廃園というスケジュールを検討しております。

また、②から④までは富洲原と同じような対応を図っていくということでもありますけれども、⑤の下野、それから⑥の大矢知については、母体となる保育園舎の老朽化が進んでおりまして、残りの耐用年数は1桁になってこようという状況であります。したがって、この2地区についてはそれぞれ、下野においては3園を統合して新園を建設、大矢知については幼稚園と保育園を統合するという前提で新園を建設して移転するということを検討しております。

次、4ページをお願いいたします。

こちらは、記載の羽津、海蔵、常磐中央、泊山、内部、笹川中央幼稚園については、この地区においては就学前のお子さんの人数が比較的多いということで、幼稚園にも一定の入園者があります。したがって、施設再編としては廃園によることなく、令和7年度に一斉になりますけれども幼稚園舎を活用したこども園へ移行しまして、あわせて、利用定員の見直しを図りながら再編を行ってまいります。

次の(3)をお願いします。

このように再編をいたしたこども園でどのように幼児教育・保育の質の向上を図っていくかというのがこちらの①と②になります。

1つ目は、3歳以上の子どもの連続した学びと育ちの充実を図っていくために、幼児教育に関しまして共通カリキュラムをつくっていききたいということで、これは夏、8月だったと思いますが、こちらの定例会でも御協議をさせていただいたところです。これは、従来、公立だけで考えておりましたところ、冒頭申し上げましたように、全市的に幼児教育の質の向上を高めていかないといけないということで、来年度、幼児教育センターの設立を機に、私立さんとも連携をしまして、幼児教育の共通カリキュラムを仕上げていきたいというふうに考えております。

表のとおり、3歳から5歳までの連続した学びと育ち、それを小学校につなげていくという、こういった基本的な考えの下で、非常に細かい具体的な園で通用するようなカリキュラムをつくっていくということでもあります。

また、2つ目ですけれども、公立幼稚園の強みとノウハウを活用したこども園づくりといたしまして、めざす子どもの姿、保護者の期待、それらを背負いながら、矢印の下、3項目、特に1つ目は多彩な遊びを取り入れた情操教育の充実ということで、心技体の心、2つ目が園庭や砂場を活用した戸外遊びの充実ということで体、地域人材・郷土の自然を活用した体験活動の充実として技の部分にも通ずる、こういったところの能力の育成を図っていききたいというふうに考えております。

最後、5ページ目は参考資料であります。

公立幼稚園の6園につきまして保護者アンケートを行っておりまして、その中間結果、12月末時点の状況をまとめておりますので、参考に御覧いただければと思います。

また、この幼稚園の再編につきましては、右のページにありますように、令和4年3月24日付で市議会からこのような意見書を頂戴したことも踏まえて検討を進めてきました。

こちらも参考に御覧をいただければというふうに考えております。

少し説明が長くなりましたけれども、私からは以上であります。

○**廣瀬教育長** ありがとうございます。

御質問等よろしいでしょうか。

○**伊藤委員** 質問というより、報告を聞かせてもらっての感想なんですけれども、改めてこの資料を見せていただくと、特に公立幼稚園の園児数が激減しているという状況の中でこういう計画がつけられているというのはよく分かるんです。ただ、希望者が少ないからといってニーズがどうかというと、やはり幼児教育というか就学前教育、教育の部分は保護者の方が強く望まれていると。これはアンケートの中にもあります。幼稚園の保護者なのでそうだとということもあるんですけれども、保育園の保護者の方のニーズもどうなのかなど。ただ、やはり国の動向も考えると、就学前教育というのは非常に大事だし進めるべきことであるということは間違いないと。特に非認知能力との関わりについては、この時期の教育は非常に重要であるということは常々以前から言われておって、改めてうちのビジョンの土台にもなるような内容を就学前で担っていくということもありますので、こういう意味では、就学前教育を本当に真剣に捉えてやっていかなきゃならないし、進めていかなきゃならないと思うんです。

ただ、ちょっと気になるのは、市議会からの意見書なんかにも「四日市市立こども園は保育園です」というふうな言葉が出てくるような状況もあるというところで、教育の面はどうかということも投げかけられていると思う。これも出されてから10か月か11か月近くたってきているわけですが、この点は、幼児教育センターをつくってやっていくということで、方向性や計画は着々と進んでいると、今まで何回か話を聞かせてもらって、思いはあるんですけれども、実際、その辺りのこども園や保育園の教育の捉え方。それから、幼稚園であったとしても非認知能力は当然意識されているとは思いますが、改めて四日市のビジョンとの照らし合わせの中で、どんなふうな捉えられ方や進められ方をしているのかなということも聞かせてもらったかなと思ってお話しさせていただきました。

○**廣瀬教育長** こども園における教育の捉え方であったり、そこで培われる非認知能力の育成の在り方について御質問がありました。

○**渡部こども施設再編推進室長** ありがとうございます。

まさに伊藤委員がおっしゃられたところ、同じような思いを持っておりまして、幼児教育センターが来年4月からできるわけなんですけれども、それを機に現場の職員の意識を

まず変えないといけないというふうに思っております。

じゃ、変えるために何をするかということなんですけれども、当然、幼児教育センターでも研修をしっかりとやって、連続した幼児教育の、具体的にはやり方ですね。その辺りは十分対応を図っていきたいと思っておりますし、また、幼児教育アドバイザーを4名配置しようと思っております。このアドバイザーが足しげく各園を訪問することによって現場から空気を変えていく、幼児教育の大切さを現場で実践していくと、こういうことを進めていききたいというふうには考えております。その結果、この意見書にもありましたような「こども園は保育園です」というような誤った認識を持つ職員をなくしていくというのは非常に大事だと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。またこの後、うちの幼稚園の指導教諭から少し考え方を説明させていただきます。

○山本保育幼稚園課課長補佐 平成29年に指導要領と指導方針を全部3つ整えられたということで、めざす子どもの姿というのが、施設は違いますけれども、皆さん、やはり非認知能力というのは大事に日々の保育ではされているのかなと思います。

幼児教育には、3つの資質能力がありまして、知識・技能の基礎というところでしっかり生活習慣を身に付け、土台になる部分をつくっていきます。教師は信頼関係をつくることを大事にしていると思っております。それが生活する力につながると思っております。

それから、3歳ぐらいになると人と関わる、友達への興味も出てきますので、そこから人との関わりの中で協働する精神だったり思いやりだったりというところでいろんな学ぶ力というのも育っていくのかなと思います。

そして、思考力・判断力・表現力の基礎というところは、さらに考えたり、もっと試してみたりというところで、そこが非常に教師の力も問われるところではあると思っております。子どもたちは何に気づいているのか、この子たちは今何を考えているのかというところを気づいてあげて、さらに次の行動につなげていってあげる、そこが教師の力量であり専門性が問われるところと思っておりますので、そこがこれから自分たちも力を入れていかなくてはいけないところでありますし、幼児教育センターで教師の質の向上というところで大事にしていきたいなとは思っております。

○伊藤委員 ありがとうございます。今説明いただいたことを本当に進めていただけたらという強い願ひは持っております。これまでも幼保一体化でやったり、こども園を進めていく中でいろいろ擦り合わせをしたり調整はされてきたと思うんですけど、やはり子どもたちをどう育てていくかという意味で、保育の部分と教育の部分をきちっとかみ合わせた

形のことを四日市が進めていくという、このことはかなり前から確認されてきていることだと思えます。それが内実をこうやってしっかり伴って進めていただくということで、大きく期待しているところです。

ただ、やはり幼稚園や保育園、それからこども園でされるのが小学校へ、特に非認知能力なんかはそうなんですけれども、この考え方がきちっと受け継がれて、一体化の考えで進めていかなきゃならんということも自分たちは思っておりますので、この考えの中での連携が今後より必要になるんだということを改めて感じさせていただきました。

○**廣瀬教育長** その辺り、いかがですか。就学前と小学校の橋渡しについての考え方については。指導課か保育幼稚園課か、どちら？

○**前田指導課長** ありがとうございます。

まさに学びの一体化で園とのつながりということで取り組んでいるところです。それについて、今年度におきましては、ビジョンの柱をテーマとして各中学校区ではつなげていくということも行っています。

実際の園の姿を見に行くというのはなかなかコロナ禍で難しいところもあったんですが、その園の姿を学校の教員が見に行ったりということも今後また改めて行っていきながら、そこで行われている指導の狙いという辺りについても共有しながら、スムーズな連携につなげていくというふうにこれからも取り組んでいこうと考えております。

○**伊藤委員** ぜひ、非認知能力のことを考えるには、小学生の教育を見るのはとても大事なことやと思っていますので、よろしくをお願いします。

○**廣瀬教育長** よろしいですか。

○**鈴木委員** 認定こども園になって、全部一緒に子どもたちが教育を受けることができるというのはすごく、子どもたちにとっても、保護者にとっても、アンケートでもあるように、すごく急に変えたりとかしなくてもいいとか、手続はもちろんあるとは思いますが、そういうことに関してもスムーズにいくんじゃないかなと。すごく保護者としてもありがたいんじゃないかなと思っています。

私立と、あと公立と、やっぱり一本化して、共通のカリキュラムをつくって進めていくということで、子どもたちも差がなく教育を受けられるのかなというふうに思っておりますので、すごく期待しているところでございます。

これは個人的な希望なんですけれども、今までコロナで何もできなかったと思うんですけど、入学する小学校に幼稚園や保育園のその年齢に達した子たちが見学に行くというこ

ともしていただいて、同じところに行くかは分からないんですけども、希望者で行ってみるとか、小学校ってこんな感じなんだよというのも、園にいる間に、中を見せていってもらって、新1年生になるという意識等を、ここに通うんだよというふうに一歩前に進める。そういうことをして交流していただくと子どもたちの意識も変わってくるのかなと個人的に思っていますので、可能ならばそういう交流をしていただきたいと思います。

以上です。

○**渡部こども施設再編推進室長** 今、鈴木委員からおっしゃられた小学校1年の交流というところは、コロナ前は非常に小学校さんにも御協力いただいて各園で取組をしておったんですが、コロナでここ数年できていない状況があります。また5月8日からコロナは5類になるということで報道がありましたけれども、そのような状況も含めまして、ぜひ再開させていただきたいなというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

○**鈴木委員** よろしく願いします。

○**廣瀬教育長** よろしいですか。

それでは、この項を終わりたいと思います。ありがとうございました。

それでは、これより、さきにお諮りしました非公開の案件に入ります。